



今月の案内人
池浦町 木村 巖さん
いけむら



★首なし地蔵
(池浦町)



その17

首なし地蔵

安城農林高校の正門から西に400メートルほど行った交差点の角にある首の無いお地蔵さん。しかし、もともと首が無かった訳ではありません。なぜ、このようになってしまったのでしょうか？

初めにこのお地蔵さんが置かれていたのは、現在、愛知県農業試験場がある辺りです。明治のころ、ここには刈谷と岡崎を結ぶ街道が通っていました。そばには松林があり、旅人がこの辺りを通り過ぎるときにキツネにたぶらかされることがよくあったそうです。しかし、お地蔵さんの前までくると、夢から覚めたように意識がはっきりとし、道も明るく感じられるようになったといわれています。

たころのことです。開墾のためにこの土地にやってきた人が、このお地蔵さんの世話をしていた人といさかいを起こし、腹いせにお地蔵さんの頭を鋏で壊してしまったのです。この人は罰が当たり、眼が痛くなり、何も見えなくなつたという話が現在に伝わっています。が、壊した際に飛び散つた石の破片が眼に入つたということかもしれません。そして、このお地蔵さんは、首が無いからと粗末に扱われることはなく、眼に御利益があるととして、人々の信仰を集めました。

その後、農業試験場や道路の拡張に伴い、数回の移転の後、現在の位置に移っています。しかし、昔と変わらず現在も地域の人々に大切にされているお地蔵さんは、今日も道行く人々を見守っているのです。

